

大ナゴヤ大学 平成24年度テーマは「チャレンジ！」です

2011年3月に発生した未曾有の大地震「東日本大震災」。その渦中に発生した福島県原発事故により、今も多くの地域住人が放射能問題に悩んでいます。

各所で被災者や避難者たちの受け入れが進められていますが、人だけでなく、瓦礫の受け入れについても地域間の認識の差が生まれています。

その状況を現地で目の当たりにする、被災地支援に取り組む活動に関わる人、あるいは直接的な関わりを持たない人の中でも、「地域どうしの顔の見えるつながり」を大事にする意識が高まってきました。

平成23年度に「Think チタ！」から始まった「チタ半島キャンパス」では、大消費地であるナゴヤという思いから、「知多半島大学」ではなく、「大ナゴ

ヤ大学」のチタ半島キャンパス」という名称となりました。「知多半島の魅力を発掘・発信」をテーマに「知多半島の5市5町が顔の見えるネットワークとして機能すること」を理念に掲げ、お互いにフラットな関係で取り組むことを決意しました。

年間50コマ以上を数える講座やサマーキャンプといった課外活動を実施し、小学生から86歳の方まで、多様な世代の参加があります。それぞれが得意分野でリーダーシップを発揮し、地域の魅力発信だけでなく、ゆるやかなコミュニティづくりが実現しています。

そういった地域の新たな取り組みに考慮し、平成24年度は、「チャレンジ！」というテーマを掲げました。「チャレンジ」とは1人ひとりが「ちよっと」+「チャレンジ」してみるとという造語です。

普段の暮らしの中で、授業づくりを行う「授業コーディネーター」体験で、マラソンに参加して寄付金を集める「ファンデレイジング」など、さまざまな「チャレンジ！」を進めていきます。

1人1人が、身近な半径100m～300mで、「チャレンジ！」する人の輪が生まれたら、地域はもちろんのこと、きっと次の世代につながる様々な変化・成長の要因が生まれていることでしょう。

3周年を迎える大ナゴヤ大学の活動は、「チャレンジ！」を合言葉に、スタッフ、先生、ボランティアスタッフ、地域の方々とともに取り組んでいきます。



＜運営団体名称＞

特定非営利活動法人 大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワーク

＜事務局所在地＞

〒460-0011 名古屋市中区大須 3-42-30 ALA 大須ビル 201

代表者名：加藤慎康（かとうしんやす） 理事長・学長

電話番号：070-5459-8213 / FAX 番号：052-262-6658（株式会社クーグート）/ E-mail：dai-nagoya@univnet.jp

設立（開校）日：2009年9月12日

法人登記日：2009年12月25日

＜目的＞

1. 広く一般市民に対して、社会教育に関する講演会やイベント、小中学校の総合的な学習への授業カリキュラムの提案等の事業を行い、あらゆる世代の人々が生涯にわたって学び続け、いきいきとした生活が送れる社会の実現に寄与する。
2. ナゴヤに関わるすべての人々がナゴヤの魅力を身近に感じるよう、これまでのナゴヤ、これからのナゴヤの魅力を発見し発信する活動を、「地域密着型の生涯学習」・「新しい地域コミュニティづくり」を通じて実践・継続する。
3. これらの活動を、多くの団体・個人と協力しながら実現する為の「プラットフォーム」としての存在価値を見出し、地域振興を図り、地域経済の活性化に貢献し公益の増進に寄与することを目的とします。

＜活動内容＞

社会教育の推進を図る活動

まちづくりの推進を図る活動

学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動

子どもの健全育成を図る活動

情報化社会の発展を図る活動

経済活動の活性化を図る活動

＜理事会＞

理事長：加藤慎康

理事：高橋佳介、

原田有紀枝、

山之内琢治

監事：岡本直人

Web: dai-nagoya.univnet.jp

E-mail: dai-nagoya@univnet.jp

編集：水谷仁美

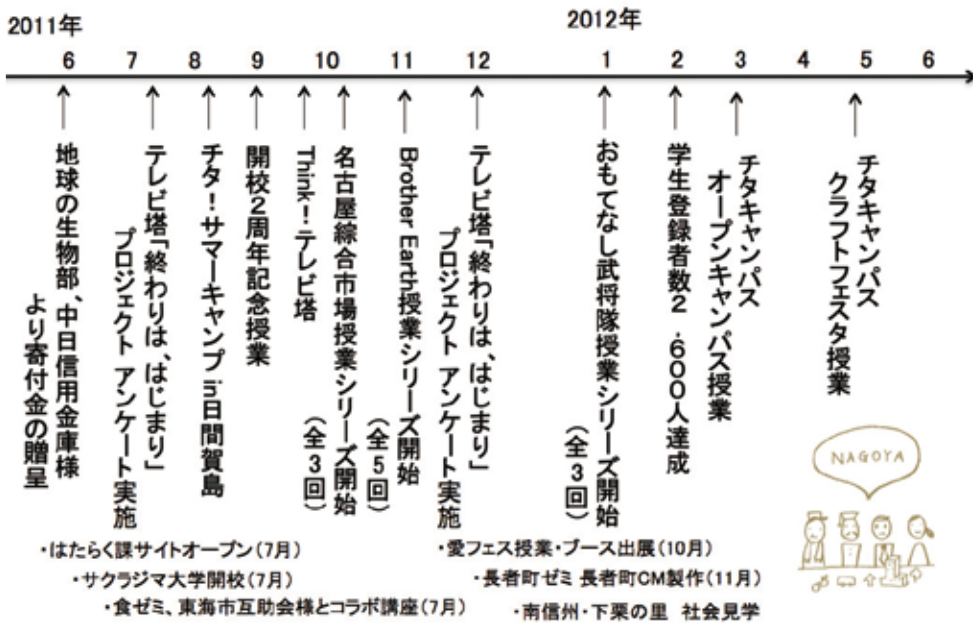


大ナゴヤ大学

NPO法人 大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワーク

平成23年度報告資料

平成23年度 活動内容



大ナゴヤ大学 開校前準備室当時からNPO法人設立。事業3期目(3月末まで)のふりかえり

本資料は、NPO 法人として3期目を終えた大ナゴヤ大学の活動を振り返る報告資料です。今後も、具体的な評価指標、事業ごとの単年度評価・今後の展望を掲載し、大ナゴヤ大学の現状を広くステークホルダーの方々に公開していきます。

※本資料は、平成24年6月30日に開催する、大ナゴヤ大学報告会にて配布・説明を目的とした資料です。

開校2周年記念授業

暮らす目線で街歩き バーチャル お引っ越し大作戦！ ～感じてみよう街の声、街の色～



2011年9月に、開校2周年を迎えた大ナゴヤ大学。

1周年記念授業では、大ナゴヤ大学のコンセプトのひとつ、「街中がキャンパス」をもとに、「名城線リアルすごろく」を行いました。「名城線すごろく」では、地下鉄名城線をすごろくのボードに、生徒さんとスタッフを駒にみたく、各駅でのミッ

ションをクリアしながら、ゴールを目指しました。

2周年記念授業では、1周年授業のコンセプトはそのままに、ゲームのエリアを「名城線」から「地下鉄全線」へと拡大！その名も「暮らす目線で街歩き・バーチャルお引っ越し大作戦！～感じてみよう街の声、街の色～」。

スタート地点となったのは、名古屋テレビ塔。行き先となる駅はルーレットで決定。1チーム5～7人からなる10チームが、それぞれ「駅」に向かい、新しく引っ越したまちを散策するように住人目線で駅周辺をまち歩きしました。伏見駅周辺では、「昔ながらの居酒屋」や「オフィス街にひっそりとたたずむスーパー」、学生が集まる本山駅周辺では「レトロな喫茶店」といった、人が行き交うまちの隠れた名店などを発見しました。

名駅西側に位置する亀島駅周辺では、カラオケ喫茶で出会った91歳のお父さんの歌声に癒されたり、今回最も遠い駅となった名古屋港駅周辺では、風情ただよう港まちで、コロッセ屋の気さくなお母さんや、お酒片手に語るお父さんに

出会い、魅力ある人の発掘を楽しみました。

ゴール地点は、昨年同様、金山駅の名古屋都市センター。チームごとに1日の体験や感想をシェアし、探索した駅周辺での気づきを発表しました。発表では、チーム一人ひとりの駅への愛がこもっていて、会場はたくさん笑顔で溢れていました。

「100人ほどの大規模なイベント」かつ「野外が教室」であったのにもかかわらず、楽しく無事終わることができたのは、大ナゴヤ大学のスタッフの成長と生徒さんの心温まる協力によるものだったのではないかと思います。

来年も、この記念授業の「常連」となった生徒さんたちが参加してくれること、そして新たな生徒さんたちと楽しく交流できることを期待しています。



Think！テレビ塔



2011年7月24日、「名古屋テレビ塔」が電波塔としての役割を終えました。

その存続や撤廃が取り沙汰されるようになったのを機に、名古屋市民や名古屋に興味を持つ人々に参加いただき、これからのテレビ塔のあり方・テレビ塔のある久屋大通公園・栄のまちのあり方について考え、この地域のまちづくりにつながる活動をしていきたいと「名古屋テレビ塔“終わりは、はじまり”」プロジェクトを開始しました。

まずは「名古屋テレビ塔 存続 or 撤廃？」について、アンケート調査を実施。第1回は2011年7月24日～9月21日[1,252件 回収]、第2回は10月15日～11月25日[239件 回収]と、それぞれテーマを変えて行いました。

アンケート結果から、

- ・多くの市民がテレビ塔に対して愛着を感じ、「いつまでも栄のまちにあってほしい」と思う一方、「税金を使ってまで存続させる価値は今のテレビ塔にはない」と考える人も多かった。栄のまちからテレビ塔がなくなるのは、景観的に寂しいが、行く機会もあまりなく施設としては現状のままであれば必要ない」と考えている人も多い。
 - ・テレビ塔が「嫌い」または「ふつう」と回答した人の中には、「久屋大通公園がよくならないとダメだ」という意見が目立ち、公園とテレビ塔を一体で良くしなければいけないと考えている人が多かった。とくに女性からは、「汚い」「暗い」「怖い」などといった悪いイメージの意見が目立った。
 - ・名古屋駅に高層ビルやショッピング街ができ、急激に人の賑わいが増える一方で、栄はかつての活気がなくなりつつある。栄のまちで店舗を構える人や地元の人々は、将来の栄に危機感を持っている。そして、栄に再び賑わいを取り戻すには、久屋大通公園が変わり、集客をもたらす仕組みを作ることが大切という意見が寄せられました。
- 続いて、9月25日には、「〇長さんとカンパニー！ 第5回 名古屋テレビ塔の社長さんとカンパニー(Think テレビ塔)」を開催し、名古屋テレビ塔の大澤社長、河村たかし名古屋市長、大村

秀章愛知県知事、そして生徒さん総勢80人で、未来のテレビ塔がどうあるべきか話し合い、ユニークなアイデアがたくさん出ました。

11月26日開催の「第2回 Think テレビ塔」では、塔内ツアーを実施。テレビ塔の現状を知り、30人の生徒さんとこれからテレビ塔をどう活用していくとよいか、具体的なアイデアを出し合いました。これらの活動から、「誰もが知るテレビ塔をもっと人が集まるよう有効活用してほしい」、「久屋大通公園を名古屋市民が誇れる魅力的な場所にしたい」、「久屋大通地区が変われば、栄に再び賑わいが生まれ、名古屋の中心が元気になる」といったみなさんの想いが見えてきて、平成24年度は、名古屋テレビ塔株式会社、名古屋市、久屋地区の発展会などと協議を重ねながら取り組んでいこうとしています。

※本活動は、2012年名古屋市民経済局による緊急雇用創出事業「久屋大通地区における都市観光魅力の創出事業」として委託を受け、取り組むこととなりました。



地元企業との協働

名古屋総合市場

「新幹線の停車駅から徒歩圏内に市場がある。」もしも旅行しようと計画している土地にこんな情報があれば、是非行って見たいと思うのではないのでしょうか？

まさにそんな立地に市場があるのがここ名古屋。高層ビルが立ち並ぶ名古屋駅周辺に、かたくなにそのスタイルを貫いているのが、そう、「柳橋中央市場」です。

その中にある、「名古屋総合市場」さまと全3回のシリーズ授業を行いました。

「目指せ馴染みの常連さん！」と題した授業では、買い物は食品スーパーが多く、市場になかなか馴染みがないという生徒さんが、市場を知り尽くし、常連さんになってしまおう！という企画をスタート。生徒さんには「研究員」と名乗っていただき、自主的な活動「市場研究所」も立ち上がりました。

3回目の最後の授業では、研究員一人ひとりが研究成果を発表しました。市場研究所では市

場のフリーペーパーを作ったり、市場で買った食材で手巻き寿司パーティーが開かれるなど、今後も継続して楽しい研究が進んでいく予定です。



2012年度も、名古屋科学館を舞台にした授業シリーズを開催予定です。



Brother Earth

「ブラザー工業」さまの従業員でもある大ナゴヤ大学のスタッフが、同社の「ボランティア表彰」に応募・入賞したことをきっかけに、初の地元企業とのコラボ授業開催が実現しました。

教室は、同社がネーミングライツ(命名権)を持つ、名古屋科学館の Brother Earth (ブラザーアース)。生徒さんは、全5回の授業を通し

て天文の魅力を学び、フィナーレのブラザー工業による招待イベント「Brother Earth Day」では「ひとつ『ブ！』ガイドさん」として、勉強の成果を披露しました。

小学4年生から60代の方まで、幅広い年齢層で、小学生の素朴な視点や鋭い感性に、大人たちが驚かされる場面が多々ありました。

ブラザー工業の従業員の方にも参加いただき、関係者一丸となって作り上げたこの授業シリーズは、まさに『協働』といえると思います。

NPO との協働スタート

メイド・イン・愛知・プロジェクト (MIAP)

モノづくりの盛んな愛知県ではありますが、「作り手」と「使い手」が交流する機会はあまりなかったのではないのでしょうか。

そこで大ナゴヤ大学では、2011年10月22日「日本のモノづくりの10年後」に向けて取り組む内閣府認証 NPO 法人「メイド・イン・ジャパン・プロジェクト」の愛知支部、「メイド・イン・

相互支援コミュニティ

2011年3月20日に、地域で活動する複数の NPO 団体などが集まり、それぞれが抱える地域資源を融通し合う「相互支援コミュニティ」が開催されました。

アスクネットさん、起業支援ネットさん、コミュニティ・ユース・バンク momo さん、G-net さん、文化共生リソースセンター東海さん、中部リサイクル運動市民の会さん、大ナゴヤ大学の各

まち歩き

港まち、地下街、大須



2011年度も、まち歩きの授業を多く開催しました。そのスポットに携わる人を「先生」に立て、授業コーディネーターと相談しながら授業の内容を組み立てます。

まち歩き授業は、先生をはじめとした地域の住人、働いている人たちとのふれあいが大きな魅力となり、人気を集めています。

愛知・プロジェクト (MIAP)」と協働して、2011年10月22日に特別授業「モノを語ってイイん会」を行いました。

「作り手」と「使い手」、立場の違う両者が「モノ選び」というテーマでフラットな立場で話し合いました。

新しい視点からの意見に、お互い気づくことが多かったと思います。

授業後には、教室を提供して頂いた FLANNEL SOFA」さんが経営する飲食店「FLANNEL KITCHEN」で、交流会を行いました。授業だけでは話足りなかったとばかりに大変賑やかな交流会となりました。

今後も、MIAP とともに、授業を展開して行く予定です。



代表とスタッフが参加し、「VBM (バーチャル・ボード・ミーティング：仮理想理事会)」を行いました。

大ナゴヤ大学のスタッフが、仮想で学長になったり、また大ナゴヤ大学以外の団体の「仮理想理事」になり、それぞれの団体が抱える課題の解決策について白熱した議論を交わしました。

大ナゴヤ大学の課題について、他団体の方から良いアドバイスをいただいたり、他団体の活動を知ることで多くの刺激を受けた内容でした。相互支援コミュニティを通じて、これまでにはあまりなかった他団体とのスタッフ間の交流や

課題の共有ができるようになり、地域の NPO との協働のはじまりとなりました。



つ、いつもとは違う目線で大須を見ることができました。



東北支援

「避難」をテーマ
とした授業

「3.11」—この数字は、私たち日本人には忘れることの出来ない、特別な数字となりました。2011年3月11日に発生した東日本大震災では、名古屋でもかなり大きな揺れを感じました。

大ナゴヤ大学もその翌日が第2土曜日で授業の日だったため、打ち合わせや準備のために事務所を訪れるスタッフもあり、ともにその瞬間を迎えました。最初のうちは「遠くで起こった大きな地震」という感じだったことを覚えています。時間が経つにつれその深刻さが浮き彫りになり、苦渋の決断で翌日の授業を中止しました。

「この日本の非常事態に、大ナゴヤ大学として何をすべきか?」。初動としては知識や準備も乏しく、アイデアが浮かびませんでした。Just Givingを通して、災害支援活動を行うCIVIC FORCEに大ナゴヤ大学から寄付を募ることができました。

毎年恒例

南信州・下栗の里



下栗の里は、長野県にある山あいの集落で、標高1,000mにあり「天空の里」とも呼ばれています。下栗の里と大ナゴヤ大学の交流は、飯田市職員をしている大ナゴヤ大学のボランティアスタッフが縁となって始まりました。「下栗の里」を教室に開校から2年続けて授業を行い、早くも毎年恒例になってきました。

2011年11月5日～6日に開催した南信州「下栗の里」社会見学ツアーでは、下栗の里を含む遠山郷エリアの伝統文化を学び、前年同様に「下栗ふれあい祭り」に参加し、地元のみなさんが出店する販売ブースのお手伝いをしま

そして日本初・名古屋発のファンドレイジングイベント「愛フェス」から、スタッフとして大ナゴヤ大学に協力要請をいただいたことをきっかけに、昨年度は、防災に関する授業を2回行うことができました。

1回目の授業は7月。「帰宅難民」という言葉がメディアを騒がせたように、いざ非常時に自宅まで帰るとなるとその難しさに気づきます。「トイレは?」「水は?」「食料は?」「明るい道は?」、さらに、「どのくらい歩き続ける力があるのか。」、不安だらけです。そんな不安を解消する授業が「緊急事態発生!あなたはどこまで歩ける!?」大ナゴヤ・オトナの避難訓練でした。NPO愛知ネットさんの寺田康生先生に、日ごろの準備と非常時の心構えなどを教わり、藤ヶ丘駅からモリコロパークまで歩き、その大変さと備えの大切さを学びました。

2回目の授業は10月。整理収納アドバイザーの瀬尾佐知子先生を迎え「これだけは守りたいかけがえのない大切なもの。持ち出し袋に思い出しシートを入れよう!」を行いました。

学ぶテーマは非常時の持ち出し袋。生活、家族、想い、人それぞれ大切なものはいろいろ。持

ち出せない大切なものも、一枚のシートにまとめて、持ち出し袋に入れよう!という内容でした。

2回とも大ナゴやらしく、楽しく学ぶ事ができました。今後とも積極的に震災・防災関連の授業を行っていきたいと思います。



方が、生徒さんになってくれたことです。それ以来、幾度も下栗に通い続け、ついに、下栗の里にある農園付き別荘「天耕の家」を契約されるまでに至り、地元のみなさんとの交流を一層深めていращやるそうです。今後も続く下栗の里と大ナゴヤ大学の交流と発展がますます楽しみです。



エリア拡大

チタ半島キャンパス
始動

2011年4月、常滑のイベント「常滑クラフトフェスタ」内で行われた大ナゴヤ大学主催の「Think チタ! 知多半島の魅力をみんなで考えよう」をかわきりに「チタ半島キャンパス」の立上げ準備が始まりました。

8月には「Think チタ!」で出会った日間賀島の方々と一緒に、大興奮の「日間賀島BBQ」を開催。肌と舌で改めて日間賀島の強烈な魅力を感じました。チタ半島キャンパスの立上げに向けて、一気に気運が高まる内容となりました。

その後は、Think チタ!のディスカッションをベースに、チタ半島キャンパスの進め方や授業

内容の検討を重ね、2012年1月28日に第1回目の授業として常滑から世界に羽ばたいているトイレに焦点を当てた授業「いいトイレの時間」を実施しました。

トイレ好きな生徒さんが集まり、授業後半のグループワークはヒートアップ。発表が終わっても興奮覚めやらず、授業の会場となったINAXライブミュージアムの庭では「ペンきですかー!」というかけ声が飛び交う中での写真撮影が続くなど、とても盛り上がりました。

第2回目の授業は、「げんきの郷」の野菜ソムリエを先生に迎え、その時期旬であった玉ねぎを題材にした授業を行いました。玉ねぎについての学習、玉ねぎを使ったドレッシング作り、そして玉ねぎのフルコースランチ!まさに玉ねぎづくしの内容でした。

グループワークでは玉ねぎに宛てたラブレターを作成し、飴色の玉ねぎに負けない、スイートな幕引きとなりました。

今年の常滑クラフトフェスタでは、「めったにできない!常滑体感【1】お茶と急須と男と女【2】酒ととっくりと男と女」、「発見!探検!クラフトマン!」という3つの授業を実施。

どの授業もすばらしいものを生み出している

「人」に焦点を当てることで、新たな価値観を持って、「ものづくり」を体感することができました。

チタ半島キャンパスの準備を通じて得た、魅力的な人たちとのつながりで、メンバー自身が知多半島の魅力を再発見・再認識できました。

チタには、隠れた宝物や人物がまだまだ存在します。日本中のフレンチシェフをとりこにするハーブ農園や1000年前の原始的な焼き方をする陶芸作家、酢や味噌、しょうゆの醸造文化、豊かな伊勢湾で営まれる漁、魚の干物加工など魅力はさまざまです。

今後はさらに外側に向けて、この魅力や感動をお伝えし、名古屋と知多半島の絆を太くする面白い授業をどんどん企画して参ります!!ご期待くださいませ!



子どもが主役の授業

名古屋おもてなし
武将隊授業

「いざ、出陣!!!!」そんな戦国武将の勇ましい掛け声が響き渡ったのがこの授業「2012年 大名古屋 春の陣。秀吉軍 vs. 家康軍 魅力決戦!君はどちらの軍!?!」です。名古屋おもてなし武将隊・豊臣秀吉様と徳川家康様を先生に迎え、生徒さん親子が各軍の家来となって、全3回の授業を通して、それぞれの魅力を研究していきます。まさに秀吉軍と家康軍の戦いが、現代によみがえったのです!

1回目は秀吉様、家康様が直々に家来をご自身のゆかりの地に案内し、戦国の世でどんなこ

とを成していったのかを語られました。家来である生徒さん、特に主役の子どもたちは、興味津々。最初はどう接して良いかわからず戸惑っていましたが、そこは子どもたちの素晴らしいところ、30分もすればすっかり武将とも打ち解けていました。

2回目は軍議として、自分のお殿様の何の魅力を自慢するのかを話し合いました。リハーサルをする軍、発表のお題を振り分ける軍と、ここにも各軍の個性が現れました。

そしていよいよ最終回の3回目。舞台は栄のど真ん中、「SMBC パーク栄」です。ステージが組まれ、なんと一般のギャラリ―も入ります!子どもたちは緊張するかな...と思っていましたが、心配無用でした。ホンモノ顔負けの手作り甲冑で参戦する生徒さん、甲冑を借りてきた方、着物姿の方など、みんな気合十分な装いで準備万端な様子。

発表中は武将たちのトーク力も加わり、本当に楽しいものでした。最終的な軍配は、家康軍でしたが、「勝敗は関係ない!」という秀吉様の一声で、2012年のこの合戦もまたやや引き分けと相成りました。

武将とのふれあいを通して、子どもたちが自分の住んでいる土地に興味を持ち、歴史や文化などを自主的に調べ、親とコミュニケーションを取り、3回の授業の間にぐんぐんと成長をしていくのが手に取るように分かりました。秀吉様と家康様の家来となって楽しんだこの授業、

彼らは大人になってもしっかりと忘れないのだと思います。こうやって土地に親しむ子どもたちが増えるような授業が、今後也大ナゴヤ大学として行っていきたい授業のひとつとなりました。



課活動

はたらく課

『そんな“はたらく”との出会い』。これは、はたらく課の活動キャッチコピーです。

2011年2月からボランティアスタッフ有志で活動するはたらく課では、これまで25回近くの会議をかさね“はたらく”についてじっくり語り合ってきました。

ゼミ

長者町ゼミ

長者町ゼミで行ってきた内容の一部をご紹介します。

ゼミオリジナル手ぬぐい製作」(5色＋糸びすまつり特別色の計6色)

「糸びす祭り用CM」：糸びす祭りの実行委員会より委託を受け製作。10月～11月の1ヶ月間、3カ所の源’sビジョンにて放映。

「夜のブラ長者」：夏にはビアガーデン、秋には餃子パーティを開催。

「真夏の長者町大縁会」：まちなかアート発展計画、長者町アートアニュアルなど長者町をフィールドと

食ゼミ

大ナゴヤ大学通常講座「野菜を知る、触れる、アートする。～マルシェ・ジャポンでカービング体験～」に参加した生徒さんやボランティアスタッフから、もっと「食」について勉強・探求してみたいという声があがり、2010年3月に食ゼミが結成されました。現在、ゼミ生の登録はおよそ50人、ふぁーむ隊(農業)・キッチン隊(調理)・ケンガク隊(社会見学)に分かれて、各自興味のある分野において研究・活動しています。

部活動

文化部(その後)

もともとは、昨年の大ナゴヤ大学の文化部「本づくりを愉しむ会」に参加していたメンバーで細々と活動しています。

実際には文化部というよりも、単に気心の知れた友人同士で集まって、自分たちでひっそりと愉し

「今まで知らなかった働き方を知り、様々な職業を知り、多様な人と成りを知る」、「いろいろな“はたらく”を知っていくことで、今後の生き方を左右する何かとめぐりあうかもしれない」この想いは、大ナゴヤ圏の素敵な“はたらく”を紹介するサイトとしてカタチになりました。

加藤慎康さんの『修行の場』

向井真人さんの『夢をつかむこと』

栗田克則さんの『遊び心を持つということ』

して活動している団体が合同で主催する夏祭り。長者町ゼミとして、ブラ長者(ガイドツアー)、トーナメント形式の長者町カルタ大会、わらしべ長者福袋、オリジナル手ぬぐいの販売、ゲリラマイムマイムを実施。

「今日ハ長者町映画館」第2弾：ショートストーリーなごや 全8作品を2日間にわたり上映。

「長者町カルタ大会@まちの会所」

「長者町ゼミツイッター @chojamachi_semi スタート」名古屋観光コンベンションビューローからの依頼でTBSドラマ「運命の人」の長者町通りでのロケにゼミ生5人がエキストラ出演。(2012年1月放送)

「長者町マップ 2011版製作」ゼミ作の長者町クロスワード掲載。

ふぁーむ隊は基礎から勉強し、市民農園を1年間借りてさまざまな野菜を収穫しました。今年度は大ナゴヤキッチンでその野菜が登場するかもしれません！

キッチン隊は「大ナゴヤキッチン」を17回開催してきました。農家さんの新鮮な野菜を調理したり、普段食べているものをいから作ってみたりと、毎月楽しいテーマを設けながら今後も継続していきます。

ケンガク隊は酒やみりんなどの製造過程を実際に見学し、社長さんや現場の熱心なお話を聞きながら「食」を学んでいます。

んでいるといった感じです。今後も、ゆるやかにつながりつつ、活動を続けていきたいと思います。

この一年で実施したイベントを紹介します。

2011年5月：キックオフランチ会(中村区の風変わりなカレー屋さんで今後のプラン?妄想?を議論)

6月：プレ小倉トースト会(次回イベントの打ち合わせと称して)

7月：小倉トースト&かき氷巡り(グループに分

3人の素敵な“はたらく”との出会いを掲載しています。

今年度は、ゲストスピーカーのお話を伺い、語り合う場「はたらくドリンクス」(仮称)開催も計画中。どんな働き方があるのか。どんな生き方があるのか。

私たちの活動が、そんな“はたらく”との出会いのきっかけになることを願い、これからもさまざまな“はたらく”をご紹介していく予定です！

ゼミ初！「長者町の住人」誕生

大ナゴヤ大学の授業「カルタで遊んでまちの魅力発見！」にゼミ生がボランティアスタッフとして参加。

「第10回糸びす祭り」に出展。カルタ大会、ブラ長者、ワークショップなどブース出店の他、山車曳きにも参加。

「新春長者町カルタ大会+もちつき」開催。



ゼミも3年目も迎え、ゼミ生の中でも追求したい分野が明確になってきました。また、外部とのつながりも一層広がり、さらなる盛り上がりを見せています。



かれて小倉トーストとかき氷を食べ歩き&発表)

10月：私の好きな本。(各人のお勧めの本を発表)

12月：クリスマス会(鳥の丸焼きが食べたい！ということで開催)

2012年3月：私の好きな映画(メンバーお勧め映画を鑑賞)

4月：円頓寺『一箱古本市』に出よう！(ブンカノトモという商号で出店)

地球の生物部



「地球の生物部」の2011年は、セントラルパークギャラリーでの「地球の生物部展」の準備作業からスタート。2010年に作った「生物庭」のことなどこれまでの活動内容を、より多くの方に知ってもらえる機会にしたいと企画しました。2月4日から11日間、生物部部長のキャッチコピーと、副部長のグラフィック、そして部員のみんなで作った「生物部員の頭の中ボックス」や、

「地球の生物部」のもう一つの側面～表彰実績～

「地球の生物部」の活動は、「COP10」(2010年名古屋で開催)の継承活動として、とくに広告の制作活動としてのクリエイティブなコミュニケーション方法で「生物多様性」について啓発し、行動を促すという取り組みが認められ、各分野より高い評価を得ました。

2011年6月8日、「中日信用金庫」さまから「第4回生物多様性について考えてみませんか定期」

ボランティアスタッフの活躍

初の新年会企画

3回目となる新年会は、ボランティアスタッフによる企画・運営という初の試み。企画スタッフは自分自身が普段感じている大ナゴヤ大学の良さ、そして、これから何を大事にすべきかなど、“大ナゴヤ大学らしさ”についての議論を重ねました。その中で「これまでの出会いを大切にしつつ、次につながる出会いを増やしたい」というスタッフ共通の想いを見出し、「交流と対話」を軸にした企画づくりを行いました。

メインイベントは3つ。気軽なコミュニケーション

消費期限切れの植物の種の配布コーナーなど…、さまざまな仕掛けを忍びせながら、街行く人々に向けて

「生物」について考えるきっかけ作りをしました。

3月からは「なごや環境大学」さんとのコラボ連載授業がスタートしました。3月27日に名古屋テレビ塔の下で行った「おうちでスコープサブライズ」授業をかかわりに、生物部のサイトもリニューアル。部員さん同士が野菜を育てながらブログを通して交流できる仕組みを作り、より身近に生物や植物について考えるきっかけを作っていました。実際に、野菜を初めて育てる小学生の部員さんに、大人の部員さんたちがブログを通してアドバイスをするなど、みんなで励まし合いながら野菜を育てている様子をあちらこちらで垣間見ることができました。

ブログで成長記録を更新しながら、4月、5月とコラボ授業を展開。4月は環境省で名古屋自然保護官として活躍する佐藤先生と久屋大通公園を歩き、名古屋の街中に生息する「外来種・

の寄付対象先としてご選定、部の活動費として14万1,066円の寄付をいただくこととなりました。

そのほかの表彰としては、以下のような多様な賞をいただいています。

「コピーライターズクラブ名古屋2011CCN賞」

「第37回愛知広告協会大賞(2012年)(グラフィック部門1位)」

「第6回全日本広告連盟 鈴木三郎助地域賞優秀賞(2012年)」

「HKDA GLOBAL DESIGN AWARDS 2011 Merit賞(2012年)」

「東京コピーライターズクラブ2011年鑑掲載」

「第37回愛知広告協会小型グラフィック部門入選」

在来種」について学びました。環境大学側からの生徒参加もあり、今までの生物部とは少し違うアカデミックな雰囲気の授業はとても新鮮でした。そして5月はまた「生物庭」に集まり、みんなで庭の手入れをしました。そこに生えている「雑草」と言われる植物はいったいどうしたらよいのか。長島園の伊藤先生を囲みながら部員のみんなで考え、庭を丁寧かつ大胆に手入れをしていきました。

7月はなごや環境大学とのコラボ授業の最終回として、バーベキュー大会を開催。3月に種を植えて各自で育てた野菜を持ち寄り、これまでの活動を報告し合いながら和気あいあいと食べたり飲んだり…、それぞれが思い思いに交流を図りました。「ブログ上で会話はしていたけれど、会って話すのは初めて！」と、いつまでも話が尽きない様子でした。最後に、副部長からお手製の表彰状を一人ずつ受け取り、賑やかなうちに幕を閉じました。

メディア掲載一覧

「宣伝会議 月刊ブレーン(51号)」

「月刊ソトコト明日の社会貢献100」

「心に届くなごみグラフィックス(ピエブックス)」

「香坂玲著 生物多様性と私たち～COP10から未来へ」



なく、スタッフにとっても楽しい新年会となりました。これを機に、今後はより一層ボランティアスタッフの活躍の場を増やしていきたいです。



えんづくり

大ナゴヤカフェ

2010年の録年会（忘年会）から始まった大ナゴヤカフェ。

今年度は、ボランティアスタッフから新しいメンバーが加わり、お客様をおもてなしました。

毎回、さまざまなお客様がカフェにお越しくださいました。小さな子ども連れでの授業参加にためらいを感じる生徒さんも、カフェには頻繁に顔をだしてくださったり、この場をきっかけにして出会えた音楽ファシリテーター・小山和音さんを先生に招いた授業も誕生しました。

6月は、大ナゴヤ大学が企画した、名古屋を

紹介する本「なごやのたからもの」を揃え、「なごやのたからもの展ふたたび」を開催。授業で本づくりを学んだ文化部の方にも来ていただいて、お客様に名古屋の良さを伝えていただきました。

10月は、メンバーの実家で採れた食材をつかったメニューでカフェを開催。店頭にも食材を並べて販売しました。

またお客様によるギター演奏もあり、思い出深い回になりました。

11月は、南信州 飯田・下栗より提供いただいた食材のほか、過去に開催した「珈琲授業」であつかったコーヒード豆を使用したカフェを開催。

下栗授業に参加した生徒さんによる三線演奏では、居合わせたお客様とセッションも行いました。

今回の収益の一部は、協賛いただいた「下栗祭」の奉納金として納めさせていただきました。

2012年3月のカフェでは、食ゼミの調理実習で学んだ杏仁豆腐を提供しました。メンバーの小学生の娘さんもお手伝いとして参加し、カフェの雰囲気がますます明るくなりました。



カリアンナイト

数枚綴りのチケットを購入し、刈谷駅周辺の飲食店をはしごして「ワンドリンクと各店のおすすめ料理一品」を楽しむことができる「カリアンナイト」。大ナゴヤ大学のスタッフが、同イベントを楽しむ様子をブログに掲載したところ、ブログを見た事務局の方からコラボのご提案をいただき、授業の開催へと至りました。

授業に先駆けて、大ナゴヤ大学スタッフと生徒さんとの有志による「カリアンナイト大好き委員会」を結成し、カリアンナイト参加店舗の取材を行いました。

今や、日本のあらゆる場所で行われている「飲み歩きイベント」。取材を通して、商店街の人々の「まちづくり」に対する思いに触れることができました。

授業当日、メンバーは「カリアンナイト伝道師」として授業を盛り上げました。「誰もが先生・誰もが生徒」を体現するような授業でした。



なごやのたからものプロジェクト・ツアー

2011年3月に発行された名古屋の案内本『なごやのたからもの』に掲載された見どころを見学するツアー授業を3回に渡って実施しました。

第1回は4月に行った「文化のみちと洋菓子ボンボン」。『なごやのたからもの』の中で特集ページとして取り上げられている名古屋市中区

白壁地区の「文化のみち」を散策。「榎木館」「二葉館」をはじめとした文化財を見学し、その後、創業60年余の老舗洋菓子店「ボンボン」でまち歩きの感想を発表しあいました。

第2回は「楊輝荘の秘密と覚王山散策」。松坂屋創業者・伊藤次郎左右衛門祐民氏の別宅で、現在は名古屋市の管理のもと一般にも公開されている貴重な建築「楊輝荘」と、普段は未公開の豪邸「聴松閣」を見学。その後、各自で覚王山のまち歩きを楽しみました。

3回目は「名古屋市役所見学」。昭和の面影を色濃く残した帝冠様式の市役所本庁舎の内部を市の職員さんのガイドで巡りました。



実験室プロジェクト

大ナゴヤ大学では、開講前のオープンキャンパスより、名古屋工業大学大学院・伊藤孝紀研究室との共同作業で、「イベント・オリエンテッドなまちづくり」の研究に取り組んでいます。毎月

行う授業でアンケートを実施し、地区エリア・授業のタイプ・講座内容によってまちのイメージがどのように変化していくかを定量的・定性的に分析しています。この客観的な視点による分析結果から、今後のまちづくりやイベントの参考資料、地域の合意形成などに有効な検証事例となるよう取り組んでいます。

また、活動の分野も研究だけでなく、授業の企画・運営まで広がっています。

2周年記念授業では、実験室プロジェクトの学生が企画・運営を担当し、イベントの指揮から備品の制作まで行いました。

今後も、研究活動に終わらない、オープンかつフラットなカタチでの相互協力をしていきます。

名古屋都市センター 夜間連続講座への 企画・運営参画

名古屋都市センターのまちづくり広場内のサロン・喫茶スペースを利用した夜間連続講座「仕事がいひろがるつながり」（2011年11月毎週金曜日開催）の企画・運営協力を行いました。

CBCラジオ「ごごイチ」

2010年の4月よりCBCラジオ「月曜ごごイチ」内の「生涯学習コーナー」で大ナゴヤ大学を毎週取り上げていただきました。

2012年3月末の番組改編による最終回までの2年間、大変お世話になりました。多くの先生のスタジオまたは電話でのご出演で、授業の感想や活動への思いを伝えていただき、数多くのリスナーさんから新規の学生登録や授業へのお申し込みをいただきました。

アナウンサーの森合康行さん、夏目みな美さんによる進行で、大ナゴヤ大学が大事にしている「丁寧に授業をつくりあげること」や「地元の盛り上げに関する思い」を汲み上げ、発信していた

この講座では、毎回設けられるテーマに関連するNPO・ボランティア団体、まちづくり支援団体に参加する方をゲストに招き、参加者との交流をはかります。

仕事や学業、家事などで毎日忙しいが、ふだんから「何か」やってみたい、あるいは「何か」取り組んでいて、もっとつながりを広げたいと思っている人が参加者となり、第1回からこれまで「活動からつながる」・「人からつながる」・「場所からつながる」というテーマのもと、気軽な雰囲気の中で講

座がすすめられました。

すでにまちづくりやボランティア活動などを「始めた人」がどんなきっかけで取り組み始め、何を気づいたか？どんな時間の過ごし方をしているか？など、ゲストと参加者両者の素直な意見が飛び交い、いくつものつながりがうまれました。



できました。先生以外にも、スタッフ、大学院生のプロジェクトメンバー、カフェスタッフなどが出演する回もあり、毎回、丁寧にご対応いただきました。リスナーさんとの出来事としては、放送を聴いてお問い合わせいただいた目の不自由な方にもボランティアスタッフがサポートし、授業に参加いただけました。

その他に、長野県の上伊那郡遠山郷の「下栗の里」を偶然車で通ったことをきっかけに、下栗の里に魅せられた方が、このラジオを聴き「下栗の里 社会見学」授業に応募・参加。その後、地域の方々との交流を経て2012年4月より「下栗の里」のクラインガルテン（滞在型市民農園）への入居を決めるなど、新たな経験・うれしい事例に次々と出会うことができました。そして、

改めて地域活動と親和性の高いラジオ放送の価値に気づかされました。

※唯一の失敗は、サクラ島大学の開校式を現地より伝えようとした2011年8月第1週の放送。鹿児島県の現地よりレポートしようとした学長の携帯電話がつかないという事態が発生し、危うく放送事故になるころでしたが、放送局の方の機転で放送枠を変更して対応していただきました。



Web経済新聞 ネットワークとの メディアミックス展開 名駅・サカエ経済新聞

地域特化型のウェブ上の情報発信サイト「名駅経済新聞」、「サカエ経済新聞」。ウェブから誰でも気軽に見ることができるので、記事にしてい

ただいた授業や企画は、ターゲットとなる中部エリアの読者に向け効果的にPRできます。

今年度は、大ナゴヤ大学でプロジェクトに掲げる「名古屋テレビ塔」について、サカエ経済新聞で取り上げていただきました。街の動向を追う新聞としては大注目のテーマで、サイト上で、名古屋テレビ塔が今後どうなっていきたいかなど、読者にアンケートをとるといった展開も。また、企業が開催するイベントとコラボした授業の当日の様子

も取材していただき、後日、イベント開催についての記事も掲載。関連記事として授業の様子が載り、広がりある見せ方ができたと思います。

また、昨年度予定に上げていた、両編集長を先生に立てた授業も実現。

共通点を持つ両新聞と協力し、まち(地域)づくりを進める大ナゴヤ大学の活動をニュースとして発信し、たくさんの方に知っていただきたいと思います。

メディア実績

平成23年度は、(テレビ・ラジオ・WEB新聞・雑誌・会報誌など)40件ほど報じていただきました(前年50件以上)。広報を専門的に行う担当者を配置することができませんでした。ボランティアスタッフの中からリリース制作のスキルを学び、プレスリリース資料を作成するスタッフが現れ、メディア各社への対応を行うことができました。2012年3月まで続いたCBCラジオ「月曜ごごイチ」生涯学習コーナー(毎週月曜日放送)、2011年8月までの1年間続いた「スパイマスター」での学長コ

ラム連載(名古屋イチ受けたい授業)など定期的なメディアでの放送・掲載の機会がありました。

その他、会報誌での団体紹介、3年間の活動を総括する新聞特集記事、「Think テレビ塔」・「名古屋おもてなし武将隊コラボシリーズ」・「チタキャンパスの開校前オープンキャンパス」等、各誌面、雑誌等で特集していただきました。

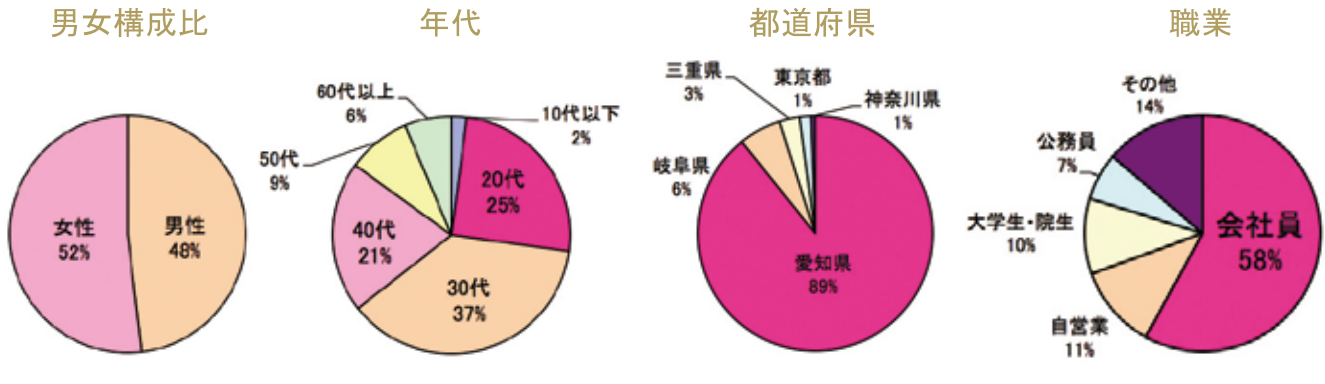
特筆すべき点として、は、「チタキャンパス」の開校前オープンキャンパス紹介における「ケーブルテレビネットワーク」の放送内容の繰り返しにより、これまで以上に多くの方が「大ナゴヤ大学」を耳や目にする機会が増えたことが挙げられます。

街なかで授業を行っている最中にも、通行する一般の方より「トイレの授業やっていた市民大学でしょ？面白いことやっているよなあ」といった声掛けや、「長野県下栗の里」で景観スポットへ移動する最中にも行き来する観光客から「大ナゴヤ大学、知っているよ」という反応をいただく機会が増えてきました。

各種報道いただく内容も、物珍しさや新規性から、徐々に社会性、NPOの活動としての側面にフォーカスしたものの、市民活動として自主的に広がっている活動の調査へと、掲載いただく記事の内容の志向性が変化した1年でした。

学生登録者の属性について(年代・都道府県・職業・ナゴヤとの関係)データ

学生登録数：2788人（男性：1342人 / 女性：1446人）



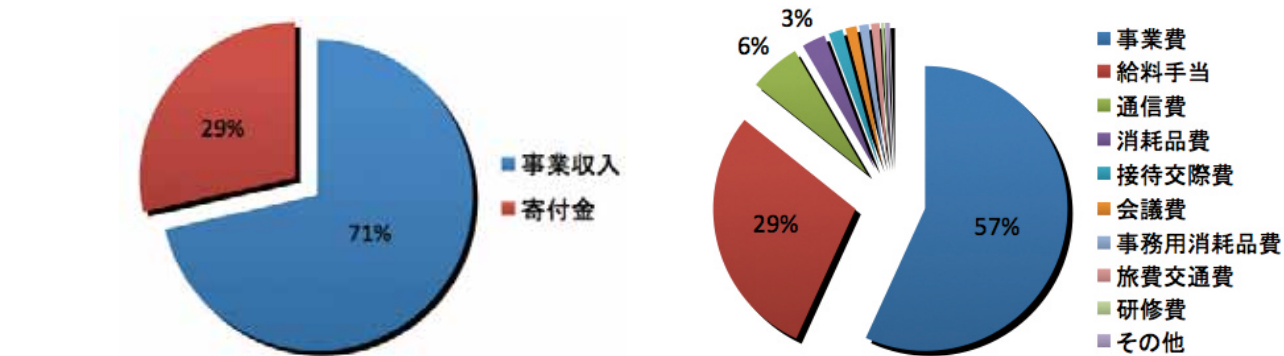
昨年(報告会時点：2286人)に比べ、学生登録数が493人増加しました。男女比の増加は横ばいでしたが、10代以下および40・50代の構成比率が微増しました。

また、都道府県比率は、本年度も愛知県が圧倒的でしたが、今後うまれる

新しいキャンパスを通して、広範囲での活動に取り組んでまいります。

大ナゴヤ大学の軸にある多様性を尊重した、幅広い層・エリアの拡大が今後の課題のひとつです。

収支状況



平成23年度経常収入額 4,490,410円

平成23年度経常支出額 4,293,850円

「平成23年度の収入は4,490千円、費用は4,294千円であり、経常収入より支出を差し引いた当期収支差額は197千円となりました。

収入面では、平成22年度に続き全体の70%強を事業収入が占めました。震災の影響で予定されていた企画が白紙になるなど想定外のスタートとなりましたが、「Think! TV塔」や柳橋市場の授業など地域に根差した活動を着実に進められた年でもありました。一方で平成23年度もたくさんの方からご支援を頂き、個人・団体の皆さまより107万7,342円の寄付をいただきました(前期寄付総額 930,525円)。これらの寄付金は、活動を維持し広げていく上で欠かせない基盤となっております。

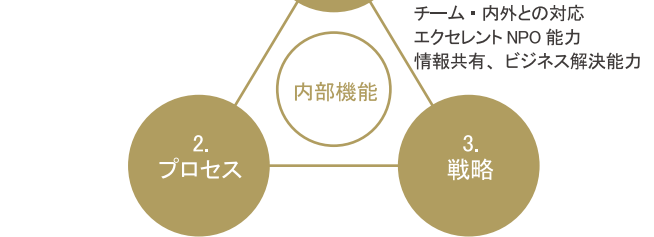
支出面では、コストを最小限に抑えつつ、平成23年1月より可能となった職員1人の給料手当を維持することができました。

平成24年度は認定NPO法人の取得に向け、まずは「恒常的な個人サポーターが100人以上」となるよう、平成23年度に開始したサポーター制度の充実を図ります。また企業とは理念や想いを共有しながら、丁寧に授業を作り上げてまいります。そして平成24年度は名古屋市の緊急雇用創出事業の受託を機に、行政機関との連携を深めてまいります。これらをバランスよく行い、活動の幅を広げてまいります。

大ナゴヤ大学のアプローチ(地域資源への着目とネットワーク化)

1. アウトプット

大ナゴヤ大学らしい授業。授業から生まれた参加者主体の活動。企画力、出版物、デザイン、コミュニケーション



2. プロセス

授業を行った後の気づき(自己開示とフィードバック)。スタッフ、参加者の成長、ナゴヤに関する自信・理解。組織の成長、気持ちの共有

3. 戦略

データ、仮説と検証。分析データによる提言
→外部・内部へ発信

平成23年度大ナゴヤ大学は、企業などが東日本大震災を受けて広報・宣伝活動などを自粛したため、年間を通じて準備していた企画・講座などの予定がすべてキャンセルになるという事態から、計画の変更を余儀なくされました。企業の担当者ベースとしては、「実行したい」という想いを述べていただくこともありましたが、会社全体として、社会風潮として自粛が求められる状況でした。

この事態から、わたしたちはNPOとして、改めて「地域資源」の課題・問題解決に着目し、「学び」を切り口とした授業づくりをすすめました。まずは、「名古屋テレビ塔」。アンケートをもとに久屋大通・栄エリアまでの活性化や賑わいをつくりあげていく取り組みをはじめることができました。次に「Brother Earth (ブラザーアース)」のシリーズ講座。世界に誇る資

源でもある「プラネタリウム」を通じてブラザー工業さまの企業理念を理解し、学ぼうというものです。

また、「名古屋おもてなし武将隊」のシリーズ講座では、未来を担う子どもたちが主体で授業がすすめられ、「地域貢献」としての新たな役割・意義を見出すことができました。

そのほか、名古屋駅の徒歩エリア「名古屋総合市場」のシリーズ講座などと、「地域と人の多様性」をテーマにたくさんの取り組みに挑戦してきました。

一人ひとりが、地域の魅力に注目し、たくさんのコミュニケーションが生まれることで、地域が活性化し、賑わいをみせることを再度確信しました。

特に、行政セクターが管理する資産・資源については、税収入の長期的減少というトレンドにともない、より「活用」「収入源の確保」「まちづくり会社などの設立による、権限と責任の移譲」へと進みます。その中で、条例などの規制・法律の問題などをクリアにするための調査・研究の一助として「大ナゴヤ大学」の活動やワークショップを協働するというアプローチが生まれました。

今後も、企業・行政・地元団体や個人と連携しながらすすめていけるスキームづくり、ヒトが集まるイベントや特別講座の継続的実現、情報メディアとの運動など幅広く取り組んでいきます。

また、特定のエリアでの取り組みとしては、名古屋駅のまちの賑わいをつくる担い手を育てる「名駅キャンパス構想」、栄から久屋大通公園地区までを「まちづくりの拠点」とした大ナゴヤ大学のゼミ活動などが活発になるスペースづくり、「チタ半島キャンパス」のような「顔の見えるネットワーク」を潜在的にご要望いただいている他地区へと展開し、「セントレア」～「名古屋駅」～「サカエ」と同時多発的に地域資源を発信できるような取り組みの輪が「学び」を通じ広がっていくことを目指していきます。

「ナゴヤで成功すれば、それは日本や世界にも通用するモデル(お手本)になるのではないか。」と、これまで考えてきたことを、地域の方々の知恵や経験、アイデアをお借りして、実現していきます。

コラボレーション実績

【企業協賛・コラボレーション授業】

- ・アサヒビール株式会社様「O長さんとカンパニー!」シリーズ
- ・株式会社新東通信様・ピースグラフィックス様 協働活動「地球の生物部」
- ・リベラル社様、Photoback(コンテンツワークス株式会社)様「大ナゴヤ大学 文化部」
- ・SEANT(セアン)様「なごやのたからもの」展、大ナゴヤ大学「文化部」わしのなごや作品発表会
- ・大須DECO様「「ヒト・モノ・くらし」～私とモノとのものがたり～」授業
- ・有限会社めちぐすいワンス様「『力に合わせて薪を御嶽山に運ぼう!』～森とのつながりを感じる旅～」
- ・株式会社フォーオール様「大切な人の笑顔が見たい!～あなたの“幸せ創造力”を鍛えよう～」
- ・ブラザー工業株式会社様「Brother Earth であそぼう!」シリーズ(全5回)
- ・名古屋総合市場株式会社様「目指せ馴染みの常連さん! 魅力体験ツアー!」シリーズ授業
- ・パナソニック電気株式会社様 アカリナイト2011「アカリアカデミー」LED講座
- ・株式会社グローバックス(ROBOBASE)様 アカリナイト2011「アカリアカデミー」LED講座
- ・デンソー株式会社様「DECOスクール」ワークショップ スタッフ出演
- ・INAXライブミュージアム「大ナゴヤ大学 ちた半島キャンパス」開校前オープンキャンパス

【企画・運営サポート】

- ・名古屋テレビ塔「終わりは、はじまり」プロジェクト(名古屋テレビ塔株式会社、名古屋市)(サポーター:アサヒビール株式会社 富士フィルム株式会社)
- ・「愛フェス2011」広報サポート
- ・名古屋都市センター様「仕事帰りでひろがるつながり」企画・運営サポート(2011年11月)
- ・名古屋都市センター様「都心楽会」Vol4 第2部交流会 運営・進行サポート(2012年2月)

【行政等とのコラボレーション】

- ・名古屋交通局「地球の生物部」部活の発表会2(地下鉄栄駅 駅ナカ広場)ポスター展
- ・なごや環境大学「『地球の生物部』と「なごや環境大学」第2回スコープ・サプライズシリーズ授業
- ・名古屋市様「なごやのたからものツアーVol3 みんなでなごやのたからものさがし～名古屋役所見学～」
- ・名古屋都市センター様 開校2周年記念授業
- ・『暮らす目線でご歩き・バーチャルお引っ越し大作戦!～感じてみよう街の声、街の色～』
- ・長野県飯田市「下栗の里」交流、ふれあい企画(2年目)

- ・名古屋大学 留学生センター様 共催(ワークショップ)『～長野県遠山郷「霜月祭」の舞と笛を学ぼう～』
- ・NAGOYA アカリナイト2011 実行委員会「アカリアカデミー」
- ・名古屋おもてなし武将隊
- ・「2012年 名古屋 春の陣。秀吉様 vs. 家康様 魅力決戦! 君はどちらの軍!?」シリーズ授業

【市民とのコラボレーション】

- ・秦義之さん(写真家)、石川進一郎くん(名古屋市在住小学生 ベーパークラフト)等「地球の生物部」部活の発表会(セントラルギャラリー)
- ・知多半島にゆかりを持つ市民のみなさん(ワークショップ)
- ・『Think チタ!』知多半島の魅力をみんなで考えよう。～知多半島だから学べること、学びたいこと～
- ・刈谷市刈谷駅前商店街のみなさん『カリアンナイト』特別授業、企画参画。
- ・「カリアンナイト×大ナゴヤ大学～カリアンナイトを120%楽しもう!～」
- ・大須商店街連盟、大須案内人のみなさま「あなたも大須案内人～いつもと違う大須体験～」
- ・名古屋駅地区街づくり協議会様「名古屋駅地下街でツアー」シリーズ授業
- ・NPO 愛知ネット様 愛フェス2011 啓発・コラボ授業
- ・『緊急事態発生! あなたはどこまで歩ける!? 大ナゴヤ・オトナの避難訓練』
- ・「愛フェス2011」in 課外授業
- ・NPO 法人飛騨小坂200滝様、御嶽山 五の池小屋様「力に合わせて薪を御嶽山に運ぼう!」協力
- ・日間賀島のみなさん「チタ! サマーキャンプ in 日間賀島～みんなでチタろう、知多半島の恵みでバーベキュー夏休み。知多半島を食べて飲んで魅力をのんびり語らおう～」
- ・散歩行倶楽部様「ノルディック・ウォーキング」授業
- ・メイド・イン・愛知・プロジェクト(NPO)様
- ・『モノを語ってイイん会?』～作り手さんと「あなた」で語る、モノ選び～シリーズ
- ・まちな所 hanare 様(錦2丁目)「カルタで遊んでまちの魅力発見!～色は匂えど長者町カルタ～」授業
- ・港まちづくり協議会様「ぶらり、みんなで港まち。シリーズ」
- ・KIZUNA ニッポンプロジェクト(グロービス名古屋校 OB、MBA ネットワーク)
- ・マルシェジャポンなごや内「被災地物産販売支援」
- ・サカエ経済新聞・名駅経済新聞「あなたも街の記者になろう!～サカエ・名駅経済新聞プレゼンツ～」